



2010年3月期の業績見通し

2009年4月1日～2010年3月31日

2009年度緊急対策プランの推進

厳しい経営環境を乗り切るために、最大限の需要を創出して可能な限りの収入を確保するとともに、下記の3項目を軸とした「2009年度緊急対策プラン」の実行を推進します。

当期純利益の黒字転換を目指す

景気の大幅な減速による航空需要の低迷が続く中で、これまで以上に需要喚起策を推進する一方、左記の「緊急対策プラン」を実行します。そして2010年3月期は、営業収入を1兆3,500億円、営業利益350億円、経常利益50億円、当期純利益30億円の達成を目指します。なお、配当は現時点では、未定とさせていただきます。

09年度緊急対策プランの実行

- 需要動向に対応した路線再編等の事業計画の見直し
- 航空運送事業で過去最大規模のコスト削減
- 安全および戦略的投資以外の投資の抑制

経営目標 単位:億円	2010年3月期 (予想)	前年差
営業収入	13,500	△425
航空運送事業	12,000	△295
営業利益	350	274
航空運送事業	325	277
経常利益	50	49
当期純利益	30	72
配当(円/1株当たり)	未定	—
EBITDA	1,590	385

※1 上記を算出するに当たっては、米ドル円為替レートを95円、航空燃油費の一指標であるドバイ原油の市場価格を1バレル当たり50米ドル、シンガポール・ケロシンを1バレル当たり63米ドルとしています。

※2 上記の予想は本報告書作成時点(6月1日)において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本報告書作成時点における仮定を前提としています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

Q&A

Q 経済環境が厳しい状況が続いている中で、今期(2010年3月期)は増益を見込んでいるようですが、今後の需要動向をどう見ているのですか。

A 今上半期は2009年3月期同様、需要は低迷し、非常に厳しい状況が続くことを予想しています。しかしながら、景気の底入れを探る兆候も一部には見られるようです。このような中、新型インフルエンザ発生というマイナス要素はありますが、今下半期以降、需要の減少は底を打ち、需要が急減した前下半期と比較して緩やかに回復に向かうものと見ています。国際線では円高傾向という追い風もあり、国内線では本年4月に導入した「シニア空割」等も好評を博しておりますので、夏季以降、より一層の需要喚起策を講じ、需要の回復を促していく考えです。

Q 今期は営業増益で最終黒字を予想しているのに、配当はなぜ「未定」なのですか。

A 「株主還元」「成長のための投資」「内部留保」の3点をバランスよく行っていくという利益配分方針の下、配当については、今後の経営環境と最終的な業績見通しを見極めた上で決めたいと思っており、現時点では「未定」とさせていただきました。厳しい環境が続く中、増収とコスト削減によって配当を続けられるよう最大限努力いたします。